

平成 28 年(2016 年)熊本地震を語り継ぐ

1 地震の震源及び規模等について

地震発生時刻	平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分	平成 28 年 4 月 16 日 1 時 25 分
震央地名	熊本県熊本地方	熊本県熊本地方
発生場所 (緯度経度)	北緯 32 度 44.5 分、東経 130 度 48.5 分	北緯 32 度 45.3 分、東経 130 度 45.8 分
発生場所 (深さ)	深さ 11 km	深さ 12 km
規模 (マグニチュード)	6.5	7.3
最大震度	7 (熊本県益城町)	7 (熊本県益城町、西原村)
発震機構	北北西—南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型 【日奈久断層帯】	南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型 【布田川断層帯】
推計震度分布図 凡 例		
	<ul style="list-style-type: none"> 震度 7 震度 6 強 震度 6 弱 震度 5 強 震度 5 弱 震度 4 	

2 熊本地震の特徴及び被害状況について

(1) 熊本地震の特徴

- **同一地域において震度 7 が短期間 (28 時間内) に 2 度発生 (観測史上初)**
- **頻発する余震 (発災から 15 日間の余震回数 2,959 回)**

	震度 6 弱以上	発災から 15 日間の余震回数	被災市町村人口 (震度 6 弱以上)	※最大避難者数
熊本地震	7 回 うち震度 7 が 2 回	2,959 回	約 148 万人 (県人口の約 83%)	約 18.4 万人 (県人口の 10.3%)
阪神・淡路大震災	1 回	230 回	約 232 万人 (同 42%)	約 31.7 万人 (同 5.7%)
新潟県中越地震	5 回	680 回	約 38 万人 (同 16%)	約 10.3 万人 (同 4.2%)

※ 避難者数は、指定避難所内の人数であり、避難所以外の車中泊等の人数は含まれない。

【提供：熊本県危機管理防災課】

【平成 28 年 4 月 14 日以降に発生した震度 6 弱以上の地震及び地震発生回数】(平成 29 年 3 月 31 日現在)

発生時刻	震央地名	マグニチュード	最大震度
4月14日21時26分	熊本県熊本地方	6.5	7
4月14日22時07分	熊本県熊本地方	5.8	6弱
4月15日00時03分	熊本県熊本地方	6.4	6強
4月16日01時25分	熊本県熊本地方	7.3	7
4月16日01時45分	熊本県熊本地方	5.9	6弱
4月16日03時55分	熊本県阿蘇地方	5.8	6強
4月16日09時48分	熊本県熊本地方	5.4	6弱

震度	発生回数	震度	発生回数
7	2回	4	117回
6強	2回	3	409回
6弱	3回	2	1,164回
5強	5回	1	2,571回
5弱	12回		

震度1以上を観測する地震が 4,285 回発生

【提供：熊本地方気象台】

(2) 人的・物的被害状況 (平成 29 年 10 月 13 日現在)

人的被害		住宅被害	
※死者	246 人	全壊	8,649 棟
重軽傷者	2,718 人	半壊	34,235 棟
		一部損壊	153,898 棟

※死者内訳

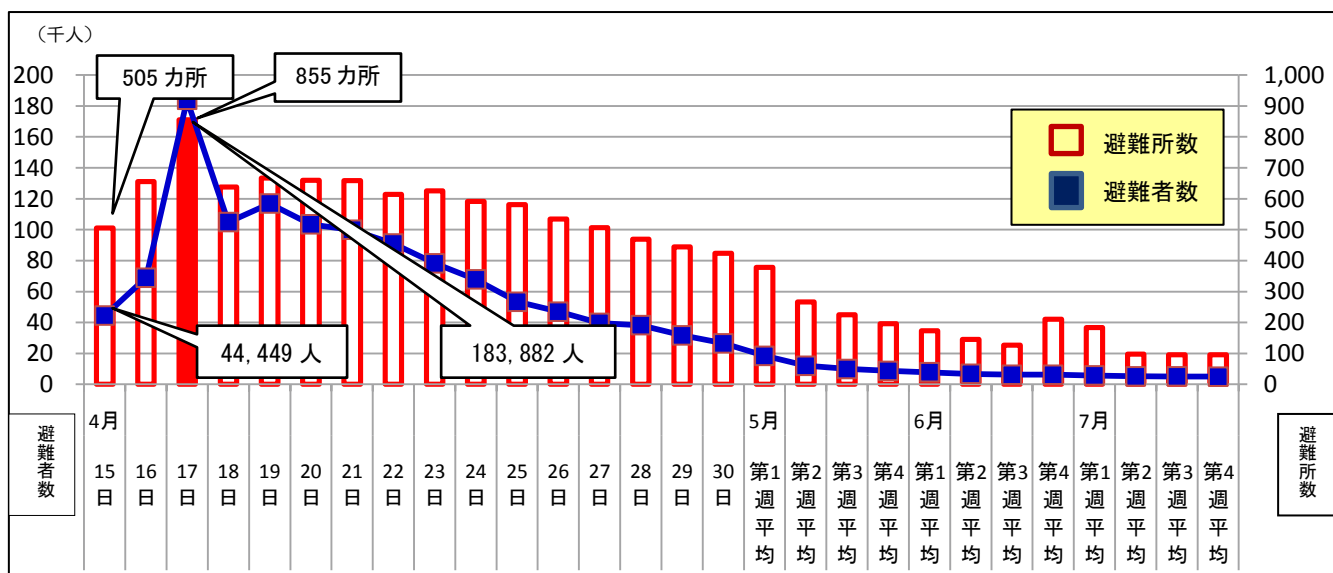
- ①警察が検視により確認している死者数 50 人
- ②市町村において災害が原因で死亡したと認められたもの 191 人
- ③6月19日から6月25日に発生した豪雨による被害のうち熊本地震との関連が認められた死者数 5 人

【提供：熊本県危機管理防災課】



(3) 避難所と避難者数の推移

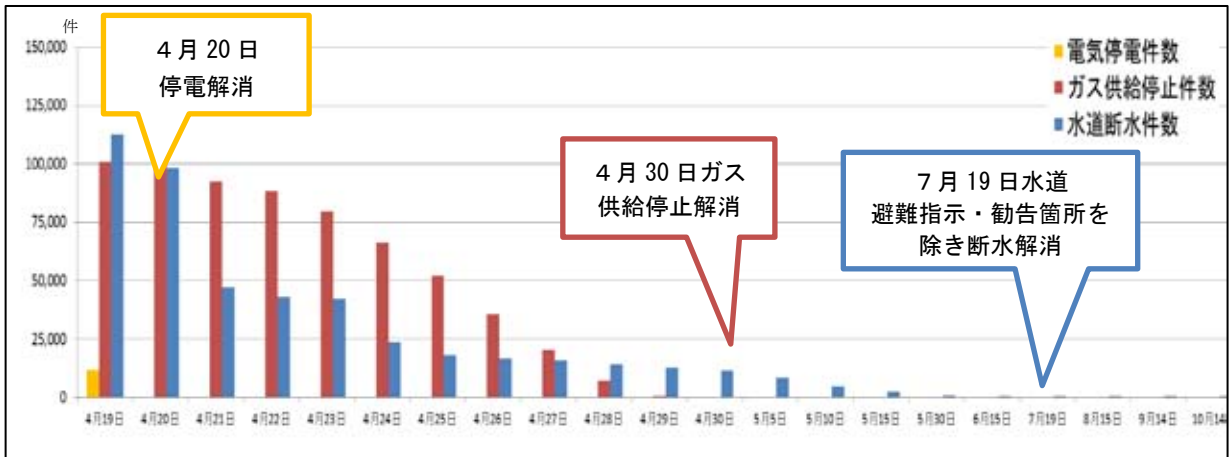
【提供 熊本地震デジタルアーカイブ(熊本県)】



※平成 28 年 11 月 18 日をもって全ての避難所が閉鎖

【提供：熊本県危機管理防災課】

(4) ライフラインの被災状況と復旧状況



【提供：熊本県危機管理防災課】

3 避難所となった学校について

熊本地震では多くの学校が被災し、ピーク時には344校の施設が避難所となり、最大2,000人超を受け入れた学校もありました。また、主たる避難所となる体育館の内装材落下などにより、避難者が他の避難所やグラウンドなどに駐車した車中への移動を余儀なくされたケースもありました。

校種	全校数	避難所開設	開設割合	最大避難者数
公立小学校	365校	224校	61%	79,793人
公立中学校※	162校	92校	57%	37,352人
公立高等学校	56校	24校	43%	12,642人
公立特別支援学校	18校	4校	22%	963人
合計	601校	344校	57%	130,750人

※県立宇土中、玉名高附属中、八代中は、高校と一体でカウントするため件数からは除く。

【熊本地震の対応に関する検証報告（熊本県教育委員会）より】



避難所となった学校のグラウンド



避難所での配給



体育館に身を寄せる避難者

4 支援について

(1) 今、自分たちができることを

避難所などでは、自らも避難所生活を送りながらも「困っている人たちやお世話になっている人たちのために、自分たちができることを」という思いで、物資の搬入や食事の後片付け、手作り新聞の発行など、多くの子どもたちがボランティア活動に取り組みました。



避難所での肩もみ
ボランティア（山西小学校）



中学生による支援物資配給の
ボランティア（嘉島中学校）



支援物資配給の
ボランティア（県立第二高校）

(2) 世界各国、全国からの支援

先の見えない不安な日々。各地からの温かい支援が、私たちに前を向く力を与えてくれました。



励ましのメッセージ (広安小学校)



ネパールの子どもたちからメッセージ
「ともに乗り越えよう」



兵庫県震災・学校支援チーム
EARTHによる支援(南阿蘇中学校)

5 学校再開について

平成 28 年 4 月 18 日以降、学校の被災状況に応じて学校の再開を行っていきました。県立学校では、5 月 10 日、市町村立学校では 5 月 11 日までに全ての学校が再開しました。

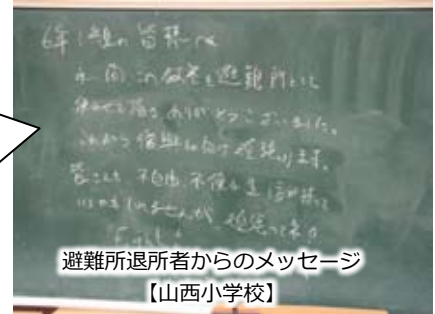
最長休校日数は、県立学校が 14 日 (宇土中・高校)、市町村立学校が 14 日 (西原村立山西小学校、河原小学校、西原中学校) でした。



避難所退所者から黑板絵の
プレゼント【広安西小学校】

「今までありがとうございました。勉強がんばってネ！」

「6年1組の皆様へ
永い間、この教室を避難所として使わせて頂き、ありがとうございました。これから復興に向け頑張ります。皆さんも、不自由、不便な生活が待っているかもしれませんが、頑張ってください！Fight!!」



避難所退所者からのメッセージ
【山西小学校】



学校再開を喜び合う
子どもたち【山西小学校】



久しぶりの登校
【南阿蘇中学校】



学校再開を喜び合う子どもたち
【南阿蘇中学校】



ユニセフ寄贈テントでの授業
【県立第二高校】



多目的ホールを仕切って長机での授業
【益城中央小学校 (木山中学校)】